

冬を楽しむ！ 昔の遊びと自然観察！ 郷土資料館「ウィンタースクール」の様子

●昔の遊び 1月10日（日） 「凧づくりに挑戦しよう」

お正月といえば、歌にもあるように「凧あげ」と連想されますが、今ではそういった姿はすっかり見られなくなりました。今年のウィンタースクールの1回目は、凧づくりに挑戦しました。思い思いの絵を書いたり、組み立てに悪戦苦闘しましたが、全員完成することが出来ました。



●自然観察 1月12日（火）

「冬の王者 オジロワシ・オオワシを見よう」

風蓮湖や走古丹漁港に観察に行きました。この時期の氷下待網漁の雑漁を狙ってたくさんのオジロワシやオオワシが見られるのですが、残念ながら休漁であまりたくさん観察することが出来ませんでした。しかし、マガモホオジロガモ、アイサやたくさんのエゾシカを見ることが出来ました。



もうすぐ開館10周年！

「加賀家文書歴史講座」のお知らせ

2000年7月に開館した加賀家文書館も今年で10年目を迎えようとしています。幕末の別海町の様子を知る貴重な資料として、展示公開され、現在も調査・研究が進められています。今年度の講座は入門編として「加賀家文書」の歴史的背景やその特徴的な事柄についてお話しします。館内の見学解説もあわせて行いますので、ぜひ、ご参加ください。

●日 時 平成22年2月27日（土）午前11時～12時

●場 所 附属施設加賀家文書館

●内 容 「加賀家文書」とは

別海町郷土資料館 主任 石渡 一人

●募集人員 20名程度

●参加申込先 電話・FAX・メールにてお名前と電話番号をお知らせください。2月26日（金）まで受付します。当日参加も可能です。（連絡先は裏面にて）



近世の別海を語る「ニシベツ」～その2～

●前期松前藩時代 18世紀後半の文献史料から

「ニシベツ」は場所請負人の飛騨屋久兵衛により、漁場が開かれ、鮭漁の時期は賑わいを見せていたようです。漁番屋などが建ち烽火台もありました。天明5年（1786）～6年（1787）幕府による蝦夷地調査が行われ「ニシベツ」の鮭漁の様子がはじめて紹介されています。

・「... 此ニシベツは毎年秋の彼岸に到れば、ニシベツの源へ鮭夥しく溯るなり。予此鮭を採るを主役とするゆへ、土人日本人に下知して網を曳かせたり。... 同年八月十七日昼七つ時に曳たる網に、鮭三十匹余掛りたり。又、翌十八日朝六つ時に曳たる網には大に掛りたり。其内悪しきを去り善きを選び、九十七束あり。一束とは、二十疋をいふ。即一千九百四十疋なり。悪きを去るとは勝れて小なるか勝れて大なるかを捨て去り、中にして揃えたるを良とする故なり。」『蝦夷国風俗人情之沙汰』「漁獵の事」最上徳内 寛政3年（1791）

・「水悪シ 此処秋味番小屋アリ 川幅十間余船渡シ 当処平山木アリ 番屋ノ脇平野ニ烽火アリ 当処砂素濱行」『松前地并東蝦夷地明細記』高橋壮四郎他 寛政9年（1797）

●幕府直轄時代 寛政11年（1799）～文政3年（1820）

寛政12年（1800）幕府納戸頭取格戸川安論の命により、江戸の将軍に献上する献上鮭を生産するようになり、「ニシベツ」は鮭の産地として名声を上げる事になります。伊能忠敬が「ニシベツ」に測量に来たときは鮭漁の最中で、根室詰の役人全員は「ニシベツ」へ出かけ、人手がないことから、それより北へ進むことは出来ませんでした。建物や交通路など文献史料の記述も具体的になってきます。

・「...五月十五日、ハツ前ニシベツ之御着。右は大海左は奇々としたる山々也。五月十六日、雨天也。逗留。ニシベツ御泊御小屋三間に六間、板蔵二間四方、下宿三ツ棟三間に拾間余、いつれ同御屋東向に前は大海、後はニシベツなり。四五間の小川也。三四丁北に蝦夷家十五六軒有。」※（北は「ベツカイ」）『東蝦夷日記』吉田有利 寛政12年（1800）

・「八月七日、ニシベツに九ツ過に着、仮家に止宿、此所は残らず仮家なり、夜晴、測量す。ネモロ御詰合御勘定大嶋栄治郎殿、御普請役井上辰之助殿、同勤方村上治郎右衛門殿、此所え御出役なり、ネモロへ罷越候儀を伺候所、当時鮭引網最中にてネモロより残らず此方へ引越候間、ネモロ会所には人なしに候へば、ネモロより迎船又は送船等にては鮭漁獵にも人少にてこまり候間、ネモロへ罷越申さず候にも相済候はば、何卒此所にて相済しくれ候様御相談に付...」『蝦夷子役志 測量日記之内 三』伊能忠敬 寛政12年（1800）

・「此所は海岸にして、是よりクナシリ嶋へ渡海の場所なり。土人も有て、番屋、漁小屋もあり、鮭の漁場なり。此所にて御賄所廻りの塩引鮭をせいし、鮭は夷地一番の上品と云。鮭漁の砌（さい）は殊の外賑ふなり。」『北夷談』松田四六筆記 松田伝十郎著 文政元年（1818）

別海町郷土資料館だより No.126

発行日 平成22年1月13日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802（FAX 兼）

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

年末・年始の大雪、そしてこの寒さ、今年の冬はどうなることやら。ウィンタースクールでの凧作り、今時凧あげしている子どもの姿はほとんど見かけませんね？ ぜひ、作った凧を青空にあげてみてほしいものです。（K.I）